

Ⅲ 資本金等

1 資本金の状況

機構の資本金の状況は、次のとおりである。

区 分	令和元年度期首	増減額	令和元年度期末
畜産勘定	29,965,359,951円	—	29,965,359,951円
野菜勘定	260,739,653円	—	260,739,653円
肉用子牛勘定	328,562,593円	—	328,562,593円
合 計	30,554,662,197円	—	30,554,662,197円

2 財務の状況

(1) 会計処理

機構は、法人の財政状態及び運営状況を明らかにするため、独立行政法人会計基準に沿った会計処理を行っており、決算に係る財務諸表は、監事及び会計監査人による監査を受け、農林水産大臣から承認された後、機構ホームページに掲載するとともに、官報に公告し、かつ、各事務所において一般の閲覧に供している。

機構の会計は、業務ごとに経理を区分し、畜産勘定、補給金等勘定、野菜勘定、砂糖勘定、でん粉勘定及び肉用子牛勘定の6勘定を設けて整理している。

機構の各種業務を執行した結果、損益計算において利益が生じたときは、前事業年度から繰り越した損失を埋め、なお残余があるときは、その残余の額は、当該勘定において積立金として整理することになっている。一方、損益計算において損失が生じたときは、積立金を減額して整理し、なお不足があるときは、その不足額は、繰越欠損金として整理することになっている。

(2) 損益等

ア 畜産勘定

当勘定においては、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金の交付業務、畜産業振興事業に対する補助業務、畜産物に関する情報収集提供業務、畜産関係団体に対する出資に係る株式又は持分の管理業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、調整資金戻入益94億8622万1千円、畜産業振興資金戻入益42億3078万2千円、運営費交付金収益5億3853万1千円、過年度補助事業費返還金1092億9931万1千円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益7億8855万1千円、運用利息、雑益等2億9742万1千円を加えた1246億4081万8千円で、費用が、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費98億1508万2千円、畜産業振興事業費275億5195万円3千円、情報収集提供事業費2億7966万2千円、畜産業振興資金繰入856億6372万6千円、これらに係る業務費、業務委託費及び一般管理費等12億5581万1千円を加えた1245億6623万4千円となったことから、当期利益は7458万4千円を計上した。この結果、積立金は8千円となり、前中期目標期間繰越積立金8億6998万7千円と合わせて利益剰余金は9億4458万円となった。

調整資金の収支は、収入が、政府からの交付金352億8096万7千円、支出が、肉

用牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費91億8320万7千円、情報収集提供事業費1億4166万円、一般管理費1億6135万4千円であった。

一方、畜産業振興資金の収支は、収入が、政府からの交付金79億777万1千円、生産者等からの拠出金65億4756万7千円、運用利息、雑益、過年度補助事業費返還金、調整資金運用利息等による収益の受入が1093億1291万8千円、支出が、肉用牛肥育及び肉豚経営安定交付金等事業費4億8864万6千円、畜産業振興事業費271億6772万1千円の補助を行ったほか、これらに係る業務費、業務委託費及び一般管理費等が2億2360万8千円であった。

令和元年度の畜産業振興事業は、酪農の経営安定対策等26項目の事業に対して補助金を交付するとともに、前年度以前に補助金として交付した畜産自給力強化緊急支援事業、畜産経営維持緊急資金融通事業、肉用牛肥育経営緊急支援事業、畜産経営力向上緊急支援リース事業、国産食肉流通合理化緊急資金支援事業、畜産収益力向上緊急支援リース事業、畜産収益力強化緊急支援事業及び配合飼料価格安定基金運営円滑化等事業に係る返還金等311億4402万3千円については、不要財産として国庫納付した。

イ 補給金等勘定

当勘定においては、加工原料乳の生産者補給交付金等交付業務、輸入乳製品の売買業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、指定生乳生産者団体補給交付金戻入益243億円、輸入乳製品売渡収入292億8308万7千円に運用利息、雑益等1394万円を加えた535億9702万6千円で、費用が、加工原料乳生産者補給交付金等交付事業費308億3351万4千円、輸入乳製品買入費239億2378万9千円、これらに係る業務費及び一般管理費等11億6810万3千円を加えた559億2540万6千円となったため、前中期目標期間繰越積立金23億2338万円を取り崩したことから、当期損益は0円となった。この結果、前中期目標期間繰越積立金は252億9313万1千円となった。

ウ 野菜勘定

当勘定においては、指定野菜価格安定対策事業、契約指定野菜安定供給事業、特定野菜等供給産地育成価格差補給事業、緊急需給調整事業、加工・業務用野菜生産基盤強化事業、野菜に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、野菜生産出荷安定資金戻入益184億8724万8千円、加工・業務用野菜生産基盤強化事業補助金戻入益5億3100万3千円、運営費交付金収益3億7943万6千円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益4億274万3千円、運用利息、雑益等4億1706万円を加えた202億1749万円で、費用が、野菜価格安定対策事業費178億6510万1千円、野菜農業振興事業費11億4945万7千円、情報収集提供事業費4090万6千円、これらに係る業務費及び一般管理費等11億223万1千円を加えた201億5769万5千円となったことから、5979万5千円の当期利益を計上した。この結果、積立金は4億1415万3千円となった。

野菜生産出荷安定資金の収支は、収入が、政府からの補助金30億円、生産者等からの拠出金58億9486万3千円、過年度補助事業費返還金等216万1千円、支出が、交付金等184億8940万9千円、負担金戻戻4億186万5千円、国庫納付金4197万4千

円であった。

エ 砂糖勘定

当勘定においては、輸入指定糖の買入・売戻業務、異性化糖等の買入・売戻業務、輸入加糖調製品の買入・売戻業務、甘味資源作物の交付金交付業務、国内産糖の交付金交付業務、砂糖に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、糖価調整事業収入506億2026万9千円、甘味資源作物・国内産糖調整交付金戻入益104億3223万4千円、運営費交付金収益9億20万7千円、資産見返運営費交付金戻入等668万9千円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益6億7360万8千円、運用利息及び雑益等412万5千円を加えた626億3713万3千円で、費用が、糖価調整事業費675億9844万5千円、情報収集提供事業費4582万円、これらに係る業務費及び一般管理費等14億8960万円を加えた691億3386万5千円となったことから、64億9673万3千円の当期損失を計上した。この結果、前期繰越欠損金211億3228万9千円と合わせて、繰越欠損金は276億2902万2千円となった。

オ でん粉勘定

当勘定においては、輸入指定でん粉等の買入・売戻業務、でん粉原料用いもの交付金交付業務、国内産いもでん粉の交付金交付業務、でん粉に関する情報収集提供業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、でん粉価格調整事業収入103億6675万6千円、運営費交付金収益2億8359万9千円、資産見返運営費交付金戻入278万円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給与引当金見返に係る収益1億6199万8千円、運用利息及び雑益40万1千円を加えた108億1553万4千円で、費用が、でん粉価格調整事業費103億6755万5千円、情報収集提供事業費3445万1千円、これらに係る業務費及び一般管理費等2億7947万4千円を加えた106億8148万円となったことから、1億3405万4千円の当期利益を計上した。この結果、積立金は3億8801万円となり、前中期目標期間繰越積立金29億6018万7千円と合わせて、利益剰余金は33億4819万7千円となった。

カ 肉用子牛勘定

当勘定においては、肉用子牛の生産者補給交付金交付業務の経理を行っている。

当勘定の損益は、収益が、運営費交付金収益5026万8千円、賞与引当金見返に係る収益及び退職給付引当金見返に係る収益5416万1千円、運用利息及び雑益等180万7千円を加えた1億623万6千円で、費用が、肉用子牛生産者補給交付金6078万1千円、生産者積立助成金9億8463万2千円、これに係る業務費、業務委託費及び一般管理費等12億2391万円を加えた22億6932万3千円となったため、前中期目標期間繰越積立金21億6659万9千円を取り崩したことから、351万2千円の当期利益を計上した。この結果、積立金は351万6千円となり、前中期目標期間繰越積立金19億9420万8千円と合わせて、利益剰余金は19億9772万4千円となった。